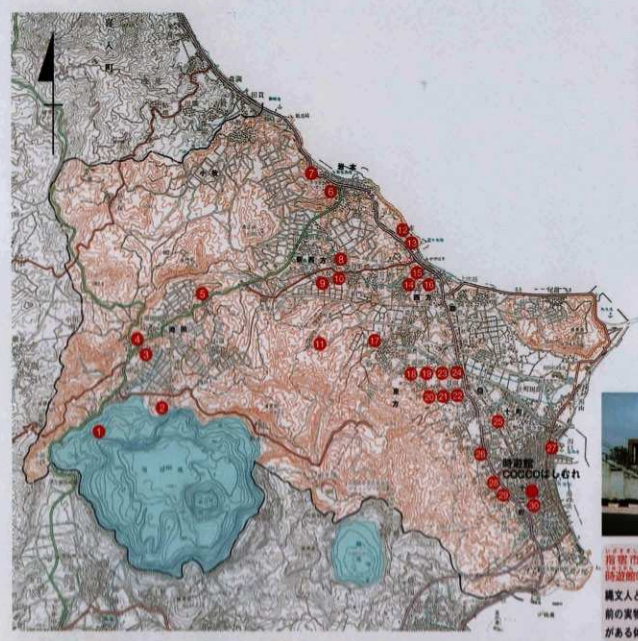


指宿市文化財マップ

Map of Cultural assets in Ibusuki city



指宿市考古博物館
時遊館COCOONはしぐれ
縄文人と弥生人の食卓の再現や、1500年前の異物大村へのタイムスリップなどがある体験型の博物館です。



1. 池田湖オオナギ幹掘地
昭和44年11月9日 市指定
池田湖は、約5500年前の噴火によってできたカルデラ湖で、九州一広いこの湖には、オオナギが豊富に生息しています。これまでに発見された最も大きなものは、体長1.8m、体重20kgほどあったといわれています。



4. 雲山の方柱板碑
昭和51年3月8日 市指定
この方柱板碑は、指宿市池田飯塚菅山にあります。碑文から、天文18年(西暦1549年)に建立され、碑の正面に直径5cmの円筒が彫られ、その中に「心」の字が刻まれています。石材には山川石(指宿凝灰岩)が使われています。



7. 今和泉島津家伝来の水手鉢
平成3年3月2日 市指定
今和泉島津家の歴史は、今和泉郡若本村におかれました。その盛跡地は、現在の指宿市今和泉小学校に在ります。この水手鉢は、高さ93cm、水を入れる鉢の内径30cm、外径58cm、底の直径36cm、胴回りの最大210cmで均整のとれた形をしています。製作者名・製作年は不明です。



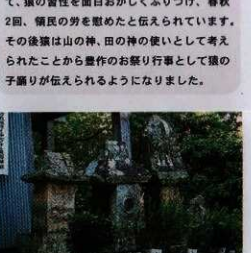
10. 木造聖観音立像二体
昭和57年4月7日 市指定
指宿市西方久保にある木造聖観音立像二体は、それぞれ造られた時期が異なっています。右側のものは、平安時代の後半に造られた作品といわれ、鹿野平島南端で最古とされます。像の高さは、70cmあります。中央のものは、室町時代に造られた作品といわれています。像の高さは、57cmです。左側のものは、江戸時代に造られた作品といわれています。像の高さは315cmです。



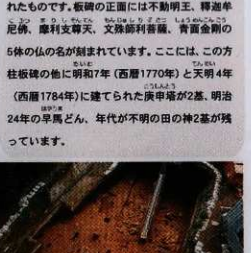
2. 刻み地蔵
昭和46年3月20日 市指定
指宿市の「磨崖仏」は、池田湖のほとりの池崎にある洞窟の中の壁面に彫られています。この「磨崖仏」には、次のような伝説が残っています。「清見城の城主池田信濃守が知覧の佐多伯耆守親久に攻められた時、池田信濃守の老者の息子は城主夫人と産を連れ出し逃げました。そして、この洞窟で戦死した一族のために食事もとらずに仏像を彫り、完成すると同時に戦死した」というものです。この伝説から磨崖仏は「餓死御前」とも呼ばれています。



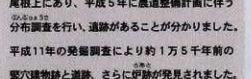
6. 今和泉島津家墓
昭和57年11月18日 市指定
今和泉島津家墓は、指宿市若本郷下にあります。今和泉島津家墓には、初代の忠節から6代目の忠実までの一族の五輪塔や宝篋印塔、家紋の墓が14基あり、その周りは100基余りの灯ろうで囲まれています。



8. 方柱板碑ほか民俗伝
平成元年7月10日 市指定
この方柱板碑は、指宿市西方渡瀬の公民館敷地内にあり、天文14年(西暦1545年)に建立されたものです。板碑の正面には不動明王、釋迦牟尼佛、摩利支天、文殊師利菩薩、普賢金剛の5体の仏の名が刻まれています。ここには、この方柱板碑の他に明和7年(西暦1770年)と天明4年(西暦1784年)に建てられた庚申塔が2基、明治24年の早馬どん、年代が不明の田の神2基が残っています。



11. 水迫遺跡
水迫遺跡は、指宿市のほぼ中央、標高126mの尾根上にあり、平成5年に発掘調査に伴う分布調査を行い、遺跡があることがわかりました。平成11年の発掘調査により約1万5千年前の縄文文化の遺跡であることが明らかになりました。空穴・土器・土器片、さらに伊勢が出土しました。後期旧石器時代の後述の遺跡がこれほど具体的な遺跡は日本では初めての事例で、1万5千年前の人々の暮らしを今に伝える貴重な遺跡です。



13. 指宿海運記および神楽
指宿市西方久保の海岸に、北西から南東にのびる三日月形の防波堤があります。指宿小学校校庭に現存している指宿海運記には、この防波堤建設のいきさつが詳しく記されています。天保4年(西暦1833年)第27代薩摩藩主島津齊興が長さ230m、高さ5mの防波堤を築かせました。



3. 吉永のモイヤマ
昭和51年3月8日 市指定
吉永のモイヤマは指宿市池田飯塚にあります。吉永のモイヤマはイテイガシを神木としています。うっそうと茂るイテイガシの樹木はどこまで神秘的な感じがします。



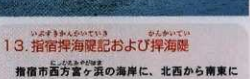
6. 今和泉島津家墓
昭和57年11月18日 市指定
今和泉島津家墓は、指宿市若本郷下にあります。今和泉島津家墓には、初代の忠節から6代目の忠実までの一族の五輪塔や宝篋印塔、家紋の墓が14基あり、その周りは100基余りの灯ろうで囲まれています。



9. 久保上方柱板碑
昭和51年3月8日 市指定
この方柱板碑は、指宿市西方久保の墓地内にあり、天文16年(西暦1547年)に建立されたものです。当時、仏教が領主層の間に広まっていたことがうかがえる銘文が刻まれています。この銘文にも「湯豊」の文字が書かれています。



12. 松尾城(指宿城)跡
昭和46年3月20日 市指定
指宿市西方外城市字城ヶ崎にある松尾城は、鎌倉時代から、江戸時代初期までの約400年間、山城、海城の両方の性格を持つ城でした。防御のための空堀や本丸跡などが現在も残っており、古城からの眺望はすばらしいものがあります。



17. 上西園のモイドンなど民俗伝
上西園のモイドンは指宿市東方道にあり、旧暦11月3日にモイコ(踊)とよばれるお祭りが行われています。このモイドンの装束はアコウの木で直径2mあります。



14. 長勝院快伝五輪塔
昭和57年7月6日 市指定
この五輪塔は、指宿市西方久保にあり、この五輪塔のある場所は、弘安元年(西暦1278年)に長松院という名前の寺が建てられ、島津義弘が息子家久の戦いの勝利を祈って、慶長14年(西暦1609年)に長勝院と名前を変えたとされています。



17. 上西園のモイドンなど民俗伝
上西園のモイドンは指宿市東方道にあり、旧暦11月3日にモイコ(踊)とよばれるお祭りが行われています。このモイドンの装束はアコウの木で直径2mあります。



15. 長勝院跡方柱板碑
昭和47年7月6日 市指定
この方柱板碑は、指宿市西方久保の長勝院跡と思われ、この方柱板碑は、指宿市西方久保の長勝院跡にあり、天文14年(西暦1545年)に建立されたもので、この銘文にも「湯豊」の文字が刻まれています。



18. 島津齊彬公祀碑新田二墓
島津齊彬公祀碑新田二墓は、指宿市東方本下にあります。安政5年(西暦1858年)に、島津齊彬は一月前に鹿児島に出かけ指宿の大干ばつを巡視し、利永の干ばつに備えて、東園寺左衛門に37の井戸を掘らせました。翌年、井戸を掘ったことを記念して新田二墓は建てられました。その後、碑文が読みづらくなったため、息子の東郷平八郎が昭和12年に新しく建てられました。



16. 湊川橋
昭和40年3月20日 市指定
湊川橋は、指宿市西方久保にあり、橋の長さは、19.2mで、幅は3.08mです。橋は、石をいかに加工し、それをアーチ状に組み合わせて造られています。この橋は第27代薩摩藩主島津齊彬の家老であった眞所英左衛門貞成が、肥後の石工、岩永三五郎に造らせたものといわれています。橋のアーチは、天保15年(西暦1844年)の銘があります。



19. 指宿神社、田の神代ムクノキ
指宿神社の田の神はムクノキを神木としています。これは樹木に田の神が宿ると伝えられている珍しい事例で、石像出現前の原始的形態を残す貴重なもので、昭和28年頃まで指宿神社では、このムクノキの下でお田植え祭りが行われていました。



20. 指宿神社 本殿・舞殿・拝殿・勅使殿
平成4年9月2日 市指定
指宿神社は、新宮寺と称され、指宿の総鎮守として人々に崇敬されています。祭神は大日靈貴命と八幡が祭られています。社殿は、本殿・舞殿・拝殿・勅使殿が一直線に並び、左右には東長持と西長持が配されています。現在の社殿は、弘化4年(西暦1847年)に第27代薩摩藩主の島津齊興が建造したものです。



23. 湯権現
昭和48年3月20日 市指定
湯権現は、指宿市西方二月田にあり、権現とは、仏が日本の神に姿を変えて現れることです。湯権現という名前は、温泉のさまざまな効能が神仏の力によるものであるという信仰の表れと考えられます。最初、長井ノ湯付近に湯権現を建てましたが、天保2年(西暦1831年)に島津家の温泉別荘といっしょに二月田に移されたといわれています。



26. 方柱板碑「湯豊」
昭和46年3月20日 市指定
指宿市十町南泊田の光明寺境内に「蘭州湯豊」に刻まれた方柱板碑があります。天文12年(西暦1543年)に建立された当時は、「指宿」を「湯豊」と書き表わしていたことがわかります。

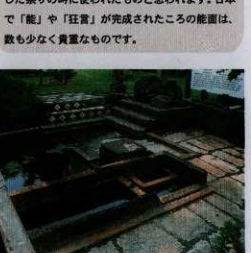


29. 木造千手観音坐像
木造千手観音坐像は、指宿市十二町小田の大明神境内にあり、室町時代に造られたとされています。江戸時代の終わりから明治時代の初めにかけて、真伝とよばれる仏教の興隆が全国的にあり、この千手観音坐像は、当時の村の青年連に持ち出され、埋したため、破損からまぬがれて、現在まで大切に保存されています。

30. 国指定史跡指宿橋本川遺跡
遺跡は、指宿市十二町下里にあり、大正7-8年(西暦1918-1919年)に京都帝国大学教授渡田静雄博士らの調査によって、火山灰はほとんどが弥生土層、下から縄文土層が出土することが判明し、その新田遺跡は、縄文時代の初めに明らかになりました。このことから、大正13年に国指定史跡に指定されました。その後、渡田の都市圏整理事業に伴い、貞観16年(西暦874年)の開闢の火山灰で被覆された遺跡が発見されるなど、国内でも貴重な遺跡としての評価を受けました。平成8年と平成12年に追加指定を受けています。



21. 指宿神社能面
昭和34年6月10日 市指定
日本の古典芸能である「能」や「狂言」は、もともと中国大陸から伝わった「散楽」などの音楽舞踊が日本の中で定着していったものです。室町時代に、父である観阿弥の遺訓をもとに、息子の世阿弥が、「花伝書」という書物にまとめ、この芸能を完成させました。指宿神社の能面は、室町時代の作品と考えられるものが三面あり、それぞれ「尉面」、「能面」、「狂言面」と名前がついています。神では「能」や「狂言」などの芸能を奉納することがありますが、これらの面はそうした祭りの時に使われたものと思われる。日本でも少なく貴重なものです。



24. 殿様湯跡
昭和46年3月20日 市指定
殿様湯跡は、指宿市西方二月田にある島津家の温泉別荘跡です。島津氏は、元禄16年(西暦1703年)まで播磨灘に別荘を構え、寛政9年(西暦1797年)には長井ノ湯(現在の弥次ヶ湯の東)に別荘を移したと伝えられています。現在残っている殿様湯跡は、天保2年(西暦1831年)に第27代薩摩藩主の島津齊興によって二月田に移されたものです。



27. 濱崎太次墓・鎮徳碑
濱崎太次は文化11年(西暦1814年)指宿村濱崎の平という商家に生まれました。太次は薩摩藩の後援もあって事業を拡大するとともに薩摩藩の財政立て直しに貢献したといわれています。その後、現地の鹿児島市に転居し、そこを拠点として那覇、長崎、大阪、新潟、佐渡、直轄など支店を置きました。こうした事業の拡大で第8代太次は巨万の富を築いたといわれています。文久3年(西暦1863年)に大阪で病にたたまれました。現在、墓は城内に、鎮徳碑は指宿市濱の薩摩神社にあります。



31. 知神ヶ島
田良浜の沖合800メートルに浮かぶ周囲3kmの無人島です。干潮時になると世界的にも珍しい砂の道(砂州)が現れ、状況によっては陸続きになり、歩いて渡ることが出来ます。島内には約210種類ほど植物があり、その中には県内でも珍しい植物も含まれています。



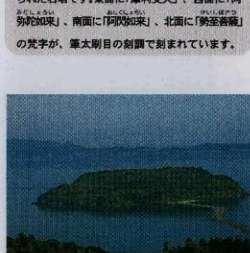
22. 指宿神社境内のクス八株
昭和47年2月7日 市指定
指宿市東方にある指宿神社には、大きな樹木が群生しています。特に、横の幹が八株も群生している状態は、鹿児島県下でも珍しく、推定樹齢は700年以上といわれています。



25. 弥次ヶ湯古墳
指宿市十町の弥次ヶ湯古墳の建替え事業に伴う平成10年の発掘調査により、古墳が発見されました。この古墳は、円墳で墳丘の直径は約17.5m、周溝の幅は約2mでした。周溝の中からは5-6世紀代の土器が発見されています。墳丘の上半分は、後世の擾乱によって消失していたが、下半分は7世紀後半の開闢期の火山灰によって埋没した状態で発見されました。日本最南端の古墳となります。



28. 方柱四方笏字(供養塔)
昭和51年3月8日 市指定
方柱四方笏字は、指宿市十二町小田寺原田にあります。山川石(凝結凝灰岩)を加工して造られた石塔で、東面に「摩利支天」、西面に「阿彌如来」、南面に「阿彌如来」、北面に「勢至菩薩」の梵字が、華厳宗の刻削で彫られています。



31. 知神ヶ島
田良浜の沖合800メートルに浮かぶ周囲3kmの無人島です。干潮時になると世界的にも珍しい砂の道(砂州)が現れ、状況によっては陸続きになり、歩いて渡ることが出来ます。島内には約210種類ほど植物があり、その中には県内でも珍しい植物も含まれています。